



議会だより ここのえ

発行 九重町議会

編集 議会広報特別委員会

平成30年7月17日

〒879-4895 大分県玖珠郡九重町大字後野上8番地の1

☎ 0973-76-3814・FAX 0973-76-3809

メールアドレス(議会事務局) gikai@town.kokonoe.lg.jp

夢クラブ

笑顔で歩ける

友と♡感謝

No.122 2018.7.17発行

6月定例会

●平成30年第2回定例会 P.2

●視察・研修報告 P.4

●特集 大激論フッ化物洗口 P.6

●一般質問 7名 P.8

●わたしのひとこと P.15

野上・滝上 佐藤 剛^{さん}
飯田・荻釣下 有吉 光則^{さん}

夢クラブの定期開催 ノルディックウォーク

平成30年 第2回定例会

本定例会は6月6日から6月21日までの16日間開催されました。

専決処分3件を含む報告2件、条例議案2件、予算議案2件、陳情1件、発議1件が提出され慎重審議の結果すべて原案どおり可決しました。

一般会計 1,388万7千円を追加し
補正予算 総額73億2,088万7千円に

平成30年度6月補正予算の主な事業

- 空き家改修事業補助金 **600万円**
- 臨時職員費(2名分) **406万2千円**
- 修学旅行特別負担金(中学校はしか予防対策費) **50万9千円**

補正予算審議

増田裕子議員

Q 地域ビジネス展開事業補助金の内訳は、

A このえまち総合サービス株式会社で農産物の集荷販売を行う。その際の交通費、販売員費、販売用備品費である。

介護保険特別会計 80万6千円を追加し
補正予算総額 14億5,158万1千円に

平成30年度6月補正予算の主な事業

- 玖珠九重行政事務組合負担金(介護認定)

**議員提出
議案可決**

「少人数学級推進・複式解消など定数改善と、義務教育費国庫負担制度2分の1還元および制度の拡充を求める意見書」

趣旨 日本では1学級及び教員1人当たりの児童生徒数が多い。グローバル化を始め社会が多様化しており、学校現場での課題が複雑化・困難化している。子どもの豊かな学びを実現するためには、教職員が一人一人の子どもに丁寧に向き合う時間を十分確保することが不可欠である。

義務教育費の国庫負担率が3分の1に減少し、自治体の財政力の違いが教育水準格差を生んではならない。教育予算は将来を担う子どもたちへの先行投資である。

教育民生観光常任委員会

審査報告

議案
2件

陳情
1件

可決された案件

九重町放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正について

放課後児童支援員の資格要件を拡大します。

・更新を受けていなくても教員免許を持っている人

・5年以上放課後児童健全育成事業に従事し、町長が適当と認めた人

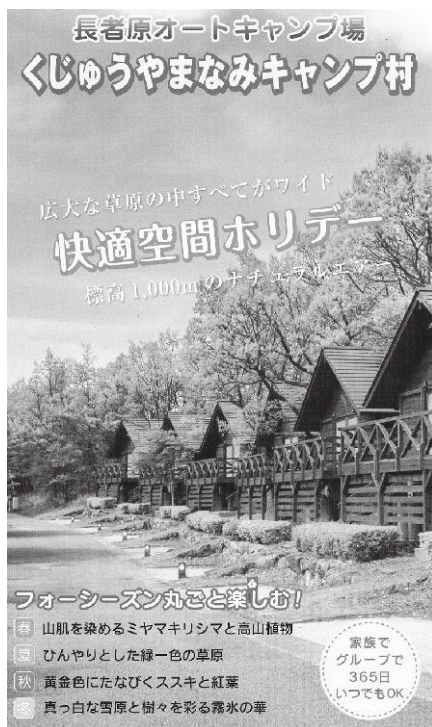
長者原オートキャンプ場の設置及び管理に関する条例の制定について

来年4月、長者原オートキャンプ場が大分県から無償譲渡されます。九重町が運営するにあたって必要な条例等を制定します。

みなさんからの陳情は、こうなりました。

少人数学級推進や複式解消など定数改善と、義務教育費国庫負担制度2分の1還元および制度の拡充に係る意見書の提出に関する陳情書について

大分県では独自の財源で、小学1年と中学は複式にしない取り組みをしています。教



大分県のパンフレットより



委員会にてタブレット授業を視察

育の機会均等は憲法の保障するところであり、国の施策として教育環境を改善するように、議会から国へ意見書を提出することとしました。

県の農業に対する新たな取り組み

アクションプラン2018

大分県は、規模拡大を希望する既存の担い手や新規就農者、参入企業等に対して優良農地を提供できるよう、10年後の地域農業を見据えた、大規模な園芸産地づくりに向けた生産基盤の整備を推進する計画です。

九重町としても、条件面など、可能性について協議を進めて行く事となります。

「このえまち総合サービス(株)事業開始

いよいよ「このえまち総合サービス株式会社」の事業がスタートしました。

人材派遣の作業支援では援助員の研修も終わり、作業依頼も入りはじまりました。

総務建設産業常任委員会

審査報告

議案
0件

高齢者を中心とした農作物の集荷・販売についても福岡市南区の企業に全面協力を頂き、その軒先を活用し7月よりこのえの農作物を販売開始します。週一回のペースで朝市を開き、状況をみながら、今後の可能性を検討していきます。



作業支援 援助員の研修

行政視察研修

の3日間宮城県の3町を視察（議会運営委員会）

研修の目的

いつ、どんな災害が起きるか
わからない中、昨年「九重町
議会災害対策支援本部設置要
綱」と「災害時議員行動マニ
ュアル」を作成しました。

町自体の存続が危ぶまれる
様な東日本大震災の時、議会
として、議員として、どんな事
ができたのか…。又、議会基
本条例の制定や議会報告会、
議会のライブ中継等の議会改
革に取り組んでいる宮城県の3
つの町を研修するためです。



多くの児童が犠牲になった小学校

南三陸町

南三陸町視察

人口：13,426人 面積：163km²
(被災状況)
死者：831名／全壊：3,143戸

- 議会ライブ中継と庁舎内放送の実施
- タブレット端末導入に向けた取り組み
- 大震災での議会の対応

亘理町

亘理町視察

人口：33,889人 面積：74km²
(被災状況)
死者：312名／全壊：2,568戸

- 休日議会の取り組み
- 議員の出前懇談会の開催状況
- 大震災での議会の対応



自然災害に備え

行政視察研修報告

5月7日～9日

研修を終えて

今回の研修の中で、どの町も東日本大震災の時、議員の行動マニュアル等もなく議会としての対応はできていなかったが、それぞれの議員が地域の中で一町民としてそれぞれの立場で活躍していたため結果的には良かったのでは、との話がありました。もし九重町で大きな災害が起きた時は、議会として対応ができる態勢を作っておく事の大切さを感じました。又、議会改革では、議会報告会を区長会との連携で多くの参加者を集めている松島町、議会を庁舎内ライブ放送している松島町と南三陸町、議会基本条例を作成している松島町と亘理町。今回の研修を今後の議会活動に活かすと共に、議員間の討議を重ね、九重町の方角を今以上に執行部へ提言できる議会を目指し、努力していきます。



地元議員と意見交換



被災現場を直接歩いて視察

福岡 ✈ 仙台

松島町

松島町視察

人口：14,421人 面積：22.42km²
(被災状況)
死者：16名／全壊：221戸

- 議会条例の取り組み
- 議会報告会、懇談会の実施状況
- 大震災での議会の対応

国内の虫歯の状況

子どもの虫歯は1970年代をピークとして減少し、H18とH29の虫歯の平均本数は1.71本と0.82本で、大分県では2.8本と1.2本でした。学校でのフッ化物洗口の実施率の高い県ほど虫歯が減少する傾向にあり、洗口の有用性が報告されています。一方、洗口実施率が低い都道府県でも虫歯は減少していますので、口腔ケアへの関心、生活環境や食生活の改善が広まっているためだといわれています。

フッ化物の虫歯予防への応用

フッ化物は天然に広く様々な形で土壌や水に存在します。河川、水道水や飲食物では、フッ素は検査対象で、含まれる量が規制されています。カルシウムと結合しやすく、水に溶けにくいフッ化カルシウムの固体となります。

フッ化ナトリウムの粉末は劇薬（体に悪影響を及ぼす量に基づき劇薬に指定される）ですが、水等で適切な濃度に薄めれば通常の薬です。市販の歯磨き剤にはフッ化物が入っています。

幼児や児童の虫歯予防として、多くの歯科医院でフッ化物塗布が行われています。歯磨きやフッ化物洗口も虫歯予防に効果があります。フッ化物洗口液は市販されていて、薬剤師の指導の下で購入できます。

海外では、水道水にフッ化物を添加している国があります。虫歯予防と斑状歯などの健康被害とのバランスが議論されています。

フッ化物洗口実施学校での事例

国内で実施している幼保は約20%、小学校も約20%、中学校は約8%で、人数はそのうちの50～60%です。希望者のみで、週一回の洗口です。

フッ化ナトリウムの粉末は薬剤師が取り扱い、水で希釈し洗口液を作製します。小学生の場合はコップに10ml入れ、30秒～1分間ぶくぶくうがいします。その後30分程度は飲食を控えます。

一時的に大量に摂取すると、吐き気、嘔吐、腹痛や下痢などの症状が出る可能性があります。コップ一杯の洗口液を間違えて全量飲み込んでも、副作用が発現する量ではありませんが、もし何らかの反応があれば、応急処置として牛乳やカルシウム剤を摂取します。

これまで、希釈用ボトルでカビが発生したことがあります。ボトルのタイプを変えたり、ボトルの洗浄や冷暗所保管を徹底しています。

大激論
議事を二分しての

経済的側面

学校のフッ化物洗口では、家庭の負担はゼロです。洗口実施により虫歯が減り、治療費が年間一人当たり2000円以上減少した自治体が複数あります。



人権侵害

2011年に日本弁護士連合会が厚生労働省に、学校でのフッ化物洗口に反対する意見書を提出し、同年に日本口腔衛生学会が見解を表明しました。人権侵害は報告されていません。

想定される人権侵害は、自己決定権の侵害、虫歯のない子は良い子で虫歯のある子はダメな子とする価値観、アレルギーや各種疾患などの様々な体質の子どもの軽視、などです。

実施判断に重要なこと

学校でのフッ化物洗口についてはいろいろな意見があります。関係者は多面的に情報を収集整理して協議を重ねることが肝要です。その上で保護者や教育現場の方々から十分な理解や納得を得る必要があります。

3月の定例会での修正動議 質疑と討論

(小学校にて、希望者のみ対象にフッ化物洗口を実施する予算を認めませんでした)

提案 内容

フッ化物洗口実施に係る安全や安心が確保されておらず、
フッ化物洗口に係る需要費（消耗品）、委託料（洗口液作成）
及び備品購入費を削減する。

賛成・反対どんな議論があったの

※予算を認めないことに賛成 
反対 

「安全や安心の確保」

- 保護者等への情報提供や協議が不十分である。保護者の約30%が意思を決めていない。
- 情報提供や協議が不十分だとする明らかな事実がない。
- フッ化物は劇薬でフッ素は毒である。希釈すれば安全であるとの考えは安易である。
- 粉末は劇薬だが希釈すれば医薬品である。洗口液は薬局で購入できる。
- 学校での実施には絶対安心であるべきである。学校で薬物を使うことは疑問である。
- 安心や安全であるとはどういうことかが漠然としていて具体的ではない。

「フッ化物洗口の有効性」

- 虫歯予防は歯磨き指導や食育の徹底で十分である。
洗口の有効性は疑問である。
- フッ化物洗口は虫歯を減らすという報告がある。専門機関は推奨している。

「利害関係者（受益者）尊重」

- アンケートの取り方、項目や結果に疑念がある。
- 約60%の保護者が希望していることを尊重し重視する。
- 保護者が事情により家庭ではできず学校の間を望む場合に実施すればよい。

「人権尊重」

- 公的な決定は保護者の自由意思に大きく影響する。
- 希望者のみの実施である。
- 洗口しない児童が少数の場合、保護者も暗黙の圧力を受ける。
児童が疎外感を持つ。

小学校での
フッ化物洗口
何がどうなった

今後はどうなるの

今後の対応

今回の予算修正は、洗口液の作成や物品購入に必要な費用のみが対象で、それ以外の執行部や教育委員会の活動は制限されません。教育委員会では当初の方針に変更はなく、時期の遅延はあるが早期導入に向け計画的に取り組むことが確認されています。

議会としては、教育委員会の活動状況や関係者の意見を把握し、随時、協議を行い、適切に判断します。

今回の定例会期間中には、教育長と執行部からこれまでの活動や今後の計画が示され、意見交換をしました。また、フッ化物洗口事業実施を求める嘆願書が、議会に提出されました。7月にはおでかけ議会があり、同時期に教育委員会では、検討委員会、学校意見聴取、それに一般講演会を計画しています。このような中、議会は洗口に係る課題には、真摯にタイムリーに対応します。

町政を質す 一般質問

7名の議員が質問

防災対策のとりくみは

..... 関連組織と連携し町民への安全対策を図る



有吉 富生

● 危険箇所の点検は十分か、視点を変えた見直しが必要

有吉 耶馬溪の災害を教訓として、町内の危険箇所を視点を変えて点検する必要があるのではないか。

町長 県との協力や町内のあらゆる防災関係機関と連携を取りながら点検を行っていく。

● 防火対策・初期消火のために行政区にジェットシュータの設置はできないか

有吉 住民が火災の協力や畦畔焼き等を利用できるジェットシュータがあれば安心されるし、防火対策に効果があるが設置できないか。

町長 初期消火は住民の協力が必要だが、バケツや消火器等で活動を行っている。今後を考え消防団や関連機関と協議していく。

● 防災マップや訓練の進捗状況は、今後の取り組みは

有吉 防災マップ、訓練が

区長をはじめ関係者の連携で進められているが計画的に取り組んでいるのか、今後の取り組みはどうか。

町長 関連する委員の皆さんの連携で毎年取り組んでいる。防災意識の向上から効果があり計画的に取り組んでいく。

● 硫黄山の現状に变化を感じるが噴火等の危険性はないか

有吉 噴煙の周辺が広範囲にわたって白くなっている、今までの状況に変化を感じるが調査等の結果に異状はないか。

町長 気象台によると表面温度や噴火については特段変化がなく硫黄が付着して遠くから見て白く見えてる。

● 農業振興について稲作関連の国、県の事業の推進は

有吉 稲作関係の事業について、積極的に推進して所得向上に繋げるべきではないか。農協、農家との協議がされているか。

町長 事業によっては農協とも協議をしているが、事業推進のためには積極的な協議が必要であり取り組んでいく。

● 有害鳥獣対策について

有吉 町内の網設置状況はどうか、今後の計画は。

町長 被害の大きなところから取り組んできた。まだ引き続き申請があるので計画的に設置していく。

● 職員の職務体制について

有吉 退職した職員の再任用について町民に制度の周知を行う必要があるのではないか。

町長 年金の受給の関係による制度であり本人の意向で実施しているため、町民の理解を求める。



変化を感じる硫黄山の白色化

藤原
三治



松木川水質汚濁は 町の松木ダムバイパス管理に 問題があるのでは

----- 適正な水門調整に努力したい

● 水質汚濁は 町の松木ダムバイパス 管理に問題が あるのではないか

藤原 松木ダム下流の水が

濁り、小魚も水生昆虫も減少した。地元には龍門の滝もあり観光にも環境にも大きな影響が考えられる。ダムとバイパスの管理を町は



バイパスの取水口を塞ぐ雑草とゴミ

どう行っているのか。

町長 水質汚濁は、日出生

台演習場内の大雨による泥水のダム流入が原因と考えられている。防止対策として、県は平成11年14億7千万円のバイパス工事を行い、町

は平成19年から、県から水門の調節と管理を引き継いでおり遠隔操作で増水時の水門操作を行っている。

● 事は急を要する 早急な対応を

藤原 水質汚濁防止として

15億円近い予算で整備したバイパス取水口の上に葎が茂り、ゴミが詰まり、増水時、充分に機能していない。一度ダムに入れば長期間濁りは取れず生態系が狂ってしまう。梅雨に入り大雨が懸念される。早急な対応が必要だ。いつまでに撤去清掃を行うのか。

町長 遠隔操作は適正に行っているが今年度は現場にはまだ行っていない。県と協議して対応したい。

● 防衛予算を活用 すべきでは？

藤原 漁協も毎年稚魚を放

流しているが、無意味であり、環境面、観光面でも周辺住民は悪い影響を被っている。防衛の予算は一番先

に周辺地域の自然と環境を守るために使うべきではないか。施設の管理も町がでなければ民間委託も考えればどうか。

町長 防衛予算の配分は周

辺地域、4地区と協議しており、そうした部分においても地元との協議を続けていきたいと考えている。

基本的には町が責任を持って管理すると覚書を交わしており、今後とも町が行いたいと思っている。

● 健康寿命を延ばす 努力は

藤原 健康維持に取り組み

個人や団体の表彰で健康寿命を延ばすことはできないか。

町長 国保で無受診世帯の表彰を行っていたが、平成

20年に後期高齢者医療保険が施行され公平性が保てないという判断で終了した。功労者表彰の個人、団体は社会教育振興大会で行っており健康づくり活動で昨年度までに23名の方の表彰を行っている。

● 人口減少対策は 夢の提供で

藤原 人口減と高齢化で耕

作放棄地と空き家が増え、消滅する集落が相当出てくることを考えられる。休んでいる田畑、空き家、機械や道具を紹介して土地に合った農作物を育てて加工販売する仕掛けを町は研究開発し、夢を提供し、外からの移住者の支援にもっと力を入れてはどうか。



移住者の受け入れに積極的な、みつまた群生地の野倉地区

町長 国もそういう施策に力を入れ、検討会を作り、関係人口の創出として方向性を出した。町としてもこの報告書を基に、そのような方向に沿って条件整備をしていきたいと思っている。

各行政区からの工事申請など 対応は十分か

.....不十分な点が認められた、状況報告を徹底していく



佐藤 明郎

● 庁舎周辺の 交通安全対策

佐藤 役場庁舎前、中学校周辺は、中学生が日常的に利用し、庁舎には高齢者も含め、不特定多数の車が来庁する。

このような重要な場で町民が交通事故の当事者になってはならない。

町長 指摘の通り、町外車両が、インター方面と勘違いし誤進入する事案が多発し、ハツとした事例も聞いている。

現在、案内表示など道路を所管する県に対し改善を要望して、予算化されたと



庁舎への誤進入を招く案内板
(役場手前の交差点)

の回答を受けている。

佐藤 行政としては当然の対応だが、県の対応を待つ間にも、町民を事故から守る、出来る限りの対策を望みたい。

町長 地元自治体として、可能な対応は取る。

佐藤 各区長から出された申請書の取り扱い、予算の都合、優先度の関係で、先延ばしされる事案がある事は理解する。

しかし、その後「どうなっているか」地元の説明はできているか。

町長 年度内に対応できない事案に対し、地元区長に状況説明が出来ていないもの

のが確認された。

今後は徹底させたい。

佐藤 町民と行政の信頼関係の基本的なことである。

役場内全てで仕組みを作り、徹底すべきだ。

町長 私も「対話のまちづくり」を進めており、課長会議にも取り上げ、徹底させたい。

● 障がい者福祉施設 建設計画の状況

佐藤 障がい者がまだまだ多面的に厳しい状況にあることは、執行部も認めていることである。

今年度、支援の柱ともいえるグループホーム設置計画の現状はどうか。

町長 建設予定地の解体工事の契約が出来たので、改めて地元説明会を開催して理解を求め、早期建設に努める。

● 障がい者に対する理解 啓発の本気度は

佐藤 町内初の施設であり不安を感じる人も予想され



地元が申請し、改良を待ちわびる町道

る。執行部が必要性を掲げる「障がい者に対する理解を深める啓発に取り組む」の本気度は。

町長 アンケートによると差別を感じた障がい者も少なくない。

あらゆる差別に共通するが、正しく理解することが差別を防ぐことにつながる。全町民を対象に啓発を行い、啓発と施設設置を両輪で進めたい。

麻生
良典



グローバルに考える子どもの育成とは

異文化や自国の理解、
言葉を超えた意思疎通と共生を

● 教育行政

麻生 グローバルに考える子どもを育成することを目指しているが、グローバルに考えるとは具体的に何か。

教育長 異文化の理解、言語の壁を越えコミュニケーションし共生すること、自分の国や地域の伝統や文化を理解し発信すること。

麻生 学校内、学校間や地域等との連携にグローバル思考が取り込まれているか。

教育長 このえ学では、地域特色、文化、歴史等と統一して取り組んでいる。しかし、グローバルな視点

からは遅れている。

麻生 先生方のグローバル感覚の獲得も必要だ。

教育長 外国語の教科化と並行して先生の研修を積む。

麻生 国際バカロレア機構は国際的な教育プログラムを提供している。外部機関も活用してはどうか。

教育長 調査し検討したい。

麻生 このえ学園評価委員会からの指摘事項は何か。指摘への対処は。

教育長 関係課との連携、集合学習やつながり学習の認知度、公民館と教職員と地域のつながり等である。担当者会議で解消する。



6年生の英語授業。熱心だ

国際バカロレア

多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探求心、知識、思いやりに富んだ若者を育成する。

自分と異なる考えの人々にも正しさがあると認めることができる人として共感する心をもって、生涯学び続けるように働きかけ、教育プログラムを開発している。

外部機関も使って、グローバル教育を

● 災害対策

教育長 児童・生徒に向き合う時間の確保である。現場は人手不足だが意識改革が必要。勤務実態を把握する。

麻生 耶馬溪の土砂崩れは、町にあつた猪牟田カルデラの噴火による地層である。町内に類似の地形はあるか。

町長 よくあるのは大雨による表面の崩壊。今回は雨が少ない時期。深い場所です。地下水により粘土化したことが原因。猪牟田の後に九重山や阿蘇山の噴火物が堆積し複雑化している。

麻生 町の土砂災害警戒区域は約480カ所で、70%が調査が完了。警戒区域や調査期間は見直さないか。

町長 H31年度の完了に変更はない。ハザードマップに結果を反映する。災害は予測できないことを再認識したため、危機管理の基本から周知する。

麻生 教職員の働き方改革はいかにするか。部活のありかたも考慮するように。

麻生 全小学校にタブレット端末が導入される。有効事例や新たな活用方法は。町内学校間でのネット授業を検討するように。

教育長 授業の準備作業が減った。児童が端末で自由に発表し、大画面で全員が共有できた。町外小学校との遠隔授業も行った。

今後の町政の具体的な方向性は

.....町民主体の具体的な町政をおこなう



佐藤 太治

● 町政の今後の具体的な方向性は

佐藤 今後、町政の具体的な方向性は。また、町民が共有できる夢のある具体案はあるのか。

町長 動かない、形が見えないという言葉を多少なりとも聞く。町づくりの原点は、町民が舞台上上がるということが第一で、そのため今、土台づくりをしている。

佐藤 政治は決断力とスピードが大切である。町長は早く具体案を町民に示し、職員に指示をしたらどうか。ある程度方向性がでたら、走りながら考えるということも考えたらどうか。九重町全体で舞台に上がり、走り出したらどうか。

町長 スピードは大事である。職員もやる気があるが、職員が舞台上上がるのではない。舞台には町民が上がるのであって、その状況が出来てない今、職員だ

けが走っても、一時的なものになってしまふ。今の時代も大事だけれど、もっと大事なのは次の世代である。次の世代が継続的に町を担えるような状況をつくらなければと思う。住民のためのまちづくりを、今一度原点に立ち返り、スピード感を上げてとりくむ。

● バークマットの今後

佐藤 バークマットの機械が設置されたが、今後の方針はどうなるのか。



格納庫とプレス機

町長 美山高校の研究の支援ということで、推進協議会を立ち上げて格納庫とプレス機を設置している。現在はトマト農家で試験的に栽培をしている。今後はトマトだけでなくイチゴ栽培や花きなどにも活用できないかと考えている。現在の施設で量産は厳しいと思っている。試験栽培の状況を見て、協議会の中で対応を検討していく。

● 危機管理について

佐藤 今ある危険箇所マップは現在の危険箇所と合致しているか。また、新たな危険箇所がある場合の対応は、どうなるか。

町長 新たな危険箇所について消防団を通じて集約しているところであり、消防団には区長と相談し、危険箇所を役場に報告していたにしている。区長に危険箇所はないかという直接的な問いかけは、今後検討していく。



整備された危険箇所

佐藤 防災訓練を各地区だけ実施するだけでなく小さな組織でも町も協働して、訓練や話し合いを指導してはいかかがか。

町長 過去に実施した集落、地区単位で、行政区単位で、実施した訓練をもとにシナリオを作成して、多くの町民が参加できる訓練を実施していく。

土井 眞一郎



高齢者ドライバー 運転免許自主返納に伴う支援は

..... 支援策について検討する



地区協議会が役割を担う催し

● 地区協議会について

土井 地区協議会が任命する役員の公務災害・旅費・食糧費などの様に規定しているのか。

町長 地区協議会は、九重町まちづくり条例で規定されている重要な団体であるため、その活動については町として可能な限り支援していく。活動費及び補償等については、予算の範囲内で有効活用をして頂きたい。

● 大吊橋収益の町民への還元

土井 子ども医療費の財源として一部利用しているが町民への還元をどの様に考えているのか。

町長 平成29年度大吊橋使用料及び諸収入の町民還元は、子ども医療費等に二十百万円で残りは町有施設整備基金、ふるさと創生事業基金に積み立てている。町民還元についてのプロジェクトチーム設置を検討する。

● 高齢者ドライバー 運転免許自主返納に 伴う支援について

土井 生活の足が奪われ日常生活に影響がでる。何らかの支援はできないか。

町長 コミュニティバスを有効利用して頂きたいが、早朝・夜間は運行していないため支援策を検討する。

● こども園の 民営化について

土井 制度等を加味した時、民営化はむずかしいのでは。

町長 職員定数管理はこども園の民営化が前提である。幼保連携型認定こども園を運営できるのは社会福祉法人又は学校法人である。今後関係する事業所との協議を行うと共に運営経費等の試算をする。



高齢者、免許返納後の支援(コミバス)

東日本大震災での教訓を九重町に! まず自分たちで逃げて自分たちでやる! という町民意識の高揚を

----- 災害多発の中、様々な対策を検討する



増田 裕子

各地での災害時の

教訓を活かして、異変や危険を感じた箇所などの情報提供を広く町民に求め、集約する仕組みを作つてはどうか

増田 いつも見ている家や田畑の近所など、一番異変に気付くのは地元住民。年に一度でも各行政区で防災を話し合う体制はどうか。

町長 支え合い防災マップ作りを進めているところ。平常時のつながりはとても重要である。東飯田地区では防災士会を中心に進んでいる。全行政区に広がっていくるように、今、区長会、地区まちづくり協議会等へ説明しながら進めている。

増田 全国に「山地防災ヘルパー」という治山事業関係者等のボランティア組織があるが、町内では。

町長 区長や消防団も入っている「支えあい・助け合いネットワーク」はある。同様の組織化は、今後検討

課題とする。

消防団や防災士の要件(どういう形で参加可能か)、

具体的に仕事内容等広く知らせると女性も増えるのでは

増田 消防団の女性隊員は。現在、5名。

増田 災害発生時、消防団や役場職員が出動した際に残された家族の問題も深刻。一人残されるケース等、参加する際の組織的なケアや取り組みが必要ではないか。

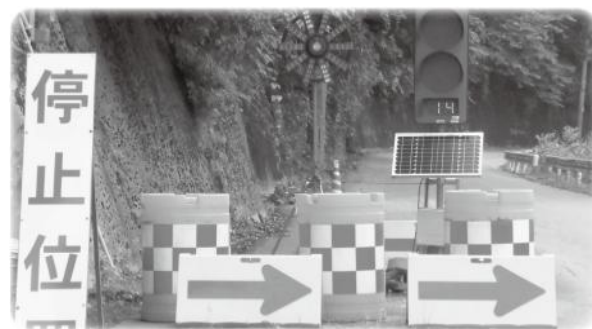
町長 核家族化が進んでいる状況下、十分検討しなければならぬ。

増田 水の確保は重要。雨水利用タンク(水洗トイレ用)の常時設置を進めるといいのではないか。

町長 防災における一つの検討材料と認識している。

増田 県道飯田高原中村線の工事区間通行用の信号機等に関して外国人にもわかりやすい道路標識や看板の設置は、交通安全上早急に必要。3月にも指摘されたがまだ整備されていない。

町長 関係機関に強く申し出をしているところである。



外国人にはわかりづらい信号機…早急に措置が必要

町長 職業紹介は社会福祉協議会との重複を整理して、草刈り等のサービスを始める。農産物は7月から週1回福岡で軽トラ朝市の販売準備を進めている。

増田 今回補正予算で90万円の地域ビジネス展開事業補助金と29年度300万円支援金の関連は。

町長 以前から要望していた国2分の1負担の補助金90万円は、今回の販売経費に充てる。支援金は、職員採用や事業開始が遅れ300万円全ては使っていない。

増田 町の持ち出しが増えるばかりではないかとの不安が大きい。会社の積極的な方向性がわからない。

町長 3年後にしっかりとした会社の収益事業を、この2年間で考えて、よりよい安定的な事業ができるような会社をつくっていきたい。

町100%出資会社についてきちんと情報公開を

増田 このえまち総合サービス株式会社の現状は。

あたしのひとこと

ふるさと

野上 滝上

佐藤 剛さん



高校を卒業して福岡で就職し、33才になるまで、「ふるさと」を離れて生活をしていました。

福岡では隣りの家に住んで居る人がどんな人かも分からないくらいでした。同じ地区に住んでいても関わりが無いのが普通でした。

「ふるさと」とは違い寂しく思いました。

33才になり「ふるさと」に妻と子供2人を連れて帰って来ました。道を歩けば、近所の人達が挨拶をしてくれて声を掛けてくれ、色々な話をしてくれました。顔の見える繋がりが温かさを感じる事ができ、「ふるさと」

の良さを実感しています。妻と子供もすぐに友達ができ、楽しく過ごしています。又、地元に戻って来たら消防団や青年部などの活動に参加して忙しくも充実した日々を過ごしています。

その中で、高齢化が進み田畑の管理が厳しくなっていると聞き、私も何かできないかと考えました。先輩達が管理できなくなった田んぼを借り、お米を作っている事を知り参加しました。仲間と一緒に作業をする事で、「ふるさと」への想いも共有する事ができました。

微力ですが、「ふるさと」の活性化の手助けをしていきたい「仲間と共に」。



仲間と共に休耕田の作付け

故郷の豆腐と今の私

飯田 荻釣下

有吉 光則さん

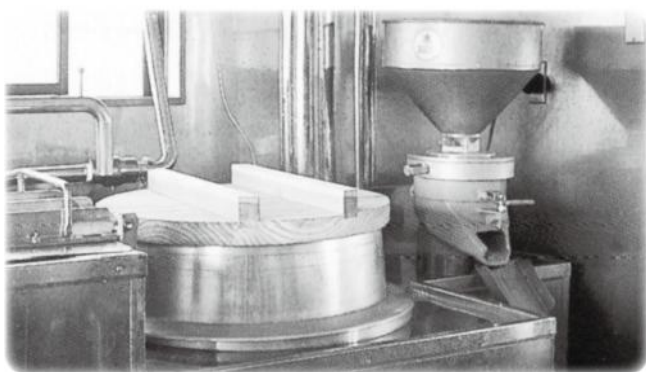


私も飯田に生まれて、68年になります。この年齢になり、ふと過去を振り返った時に、

サラリーマン生活約30年、退職して何で生活をと考えた時に、幼少の頃から、大豆の煮る香りで、育った私に出来る事は、手作り豆腐しか、思いつきませんでした。両親から、豆腐を作る時の話を聞き、又、見て育ったとは云え、難しいものがありました。幸いにも、両親が元気でしたので、昔を思い出しながら、教えてくれました。又、中学生の頃に両親から聞いた事のメモが

見つかって大変助かりました。始めた当時は別荘ブームと健康ブームのおかげで、今年で20年を迎える事が出来ました。

この間には、入退院の時期もありましたが、仲間にも励まされ、乗り越える事が出来ました。又、飯田小学校5年生と一緒に、手作り豆腐を作る機会を頂きました。よせ書きも頂き、大変うれしく思っています。飯田高原には、四季折々の良さがたくさんあります。これからも、手作り豆腐にかけて行きたいと思っています。



これで豆腐をつくってます

傍聴へどうぞ 次回は9月です



定期的に
グラウンドゴルフを
楽しむ高齢者たち



まちづくり協議会



議論はつづく!!

このえ
ふふさと便り
第10便



子ども教室での
芋苗植え



住民自ら企画 定期開催
子どもから高齢者まで
つなぐ食堂



議会だよりについてご意見をお聞かせください。【議会事務局：76-3814】

・広報委員長 佐藤 明郎
・副委員長 麻生 良典
・委員 佐藤 博美
・委員 土井 眞一郎
・委員 増田 裕子
・委員 佐藤 太治



佐藤 太治

5月に議会運営委員会で南三陸町、松島町、亶理町に研修に行きました。東日本大震災で被害があった所です。大変な被害であったことを痛感しました。深い心のキズ、力強い復興、その現実が伝えられたらと、「議会だより」の紙面づくりに努めています。

情報を紙面で伝える難しさを、「議会だより」の作成に参加するたびに思います。よりよい紙面を作ろうと、委員会での議論や研修を重ねていますが、まだまだ思うようにいきません。

編集後記